



災害 -風水害-

土砂災害から身を守ろう

土砂災害は、大雨や地震などの発生に伴い、山やがけなどの斜面で突発的に発生し、大きな被害をもたらす災害です。土砂災害に備えるための知識を身につけましょう。

土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)



斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震などでゆるみ、突然崩れ落ちる現象。

土石流



山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に押し流される現象。

地すべり



斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。

前兆現象



がけに亀裂が入る



山鳴りが聞こえる



山脈や地面にひび割れができる



小石が落ちてくる



川の水が急に濁り、流木が流れてくる



沢や井戸の水が濁る



水が湧き出る



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



斜面や地面から水が吹き出る

上記は、前兆現象の一例です。すべての場合において必ず起きるものではありません。普段と異なる現象が発生し、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒区域を確認しましょう

土砂災害のおそれがある区域について、北海道が「土砂災害警戒区域(イエローゾーン)」と「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」を指定しています。

●土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域で、警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域

●土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められ、一定の開発行為の制限及び建築物の構造規制などが行われる区域

帯広市で指定されている土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域は、8箇所です。(55ページ参照)

土砂災害から身を守るポイント



前兆現象に注意

土砂災害の発生前には、音や臭いなどの前兆現象が発生することがあります。前兆現象を確認した場合は、避難情報が出ていなくても、速やかに避難しましょう。



警戒区域の付近には近づかない

避難するときは、警戒区域に近づかないようにしましょう。また、近くの警戒区域の場所を普段から確認しておきましょう。



早めの避難

土砂災害は、大きな被害をもたらす可能性があります。避難情報が出ていない場合でも、不安を感じたら、警戒区域から離れた場所に避難しましょう。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、降雨による土砂災害の危険が高まった時に、自治体が避難指示を発令する判断や住民が自主避難をする判断の参考となるよう、北海道と気象庁が共同で発表するものです。土砂災害警戒情報が発表され、近くに警戒区域がある場合、いつでも避難がとれるように備えをしておきましょう。

土砂災害警戒情報が発表された場合、気象庁の「土砂キキクル」で土砂災害の危険が高まっている地域の詳細を確認することができます。「土砂キキクル」では、1km四方の領域ごとに危険度を5段階の色で表示がされ、10分毎に更新されています。土砂災害警戒情報が発表された時は、「土砂キキクル」を確認しましょう。



土砂キキクル